

平成30年度 行政視察報告書

平成30年2月1日(金)

チャレンジ岡崎・無所属の会 杉山 智騎

1. 視察日程

平成30年11月14日(水)～11月15日(木)

2. 視察先及び視察内容

栃木県宇都宮市 第13回 全国市議会議長会 研究フォーラム

3. 視察内容

■第13回 全国市議会議長会 研究フォーラムについて

11月14日(水) 13:00～

11月15日(木) 9:00～

i) 全国市議会議長会 研究フォーラムについて

○基調講演

「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を超える自治体のかたち

宮本 太郎：中央大学法学部教授

○パネルディスカッション

議会と住民の関係について

コーディネーター 江藤 俊昭：山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授

パネリスト 今井 照：(公財)地方自治総合研究所主任研究員

本田 節：有限会社 ひまわり亭代表取締役

神田 誠司：朝日新聞大阪本社

小林 紀夫：宇都宮市議会議長

○時期開催地挨拶

○意見交換会

○課題討議

議会と住民の関係について

コーディネーター 江藤 俊昭：山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授

事例報告者 桑田 鉄男：久慈市議会副議長

伊藤 健太郎：新潟市議会議員

ビアンキ アンソニー：犬山市議会議長

道法 知江：竹原市議会議員

○閉会式

○視察

ii) 所感

まず、今回の研究フォーラムに参加して一番勉強になったことは、江藤氏のコーディネーターです。進行方法、話しの振り方、盛り上げ方、会場を一体化させる方法、自分の意見の差し込み方、まとめ方、など全て学びでした。議会内での委員長、議長は言ってみればコーディネーター要素も多く、これからも自分にとって必ず習得しなくてはいけない技術だと再認識できました。江藤氏のコーディネーターを身近に見れて、体感できたことは何事にも代えがたい経験となりました。そして、宮本氏の基調講演は2040年問題に向けての孤立化を問題視し、現役世代に対しての問題点、「重量挙げ」化と「漏斗」化という考え方、など新しい考え方を聞かせていただきました。そこからの地域共生社会へ向けての課題、困窮から孤立を超えて「誰もが人財」のまちへ、定年後男性の地域デビュー支援でご当地を「生涯活躍のまち」へ、などの実例を示していただきました。講演の中に、「フーテンの寅さん」や「釣りバカ日誌」などの話題を取り上げたり、鹿児島市のナガヤタワー、金沢市のシェア金沢などの事例をまぜたり、聞く側の興味心を存分にあってくれるものでした。これからの地域共生社会への取り組みは各地域で異なることは多いが、問題の根源は共通することも多く、広域連携で取り組むべきことも多岐にわたります。本市も地域で暮らす様々な方々のことを考え、共生できるためには何が必要なのかをしっかりと考えないといけないし、その分岐点に来ているのだなと感じました。パネルディスカッション、課題討議は江藤氏の進め方が絶妙であったこともありますが、時間が足りず、もっと聞きたいと思いました。各市、各地域、各団体で考え方、問題点、着眼点などは様々で本市で参考になること、参考にはいけないことが混在していましたが、そこを自分自身で「岡崎には必要だ。岡崎は真似してはいけない。」などを考えながら、一緒に参加することができました。各市町の先進事例を学ぶことも大切ですが、そこまでの経緯を



知ることはもっと大切だと思っています。なぜ、その事業をやろうとしたのか？失敗はなかったのか？問題点をどのように解決したのか？住民の声は？などを聞きながら、本市での検討を考えなければいけません。今回の研究フォーラムはこれらの点を踏まえて講演、討論をしてもらえたのでとても勉強になりました。本市にとっても非常に大切で喫緊の問題点でもある「地域共生社会」「議会と住民の関係」について、これからも行政とともに考え、検討していきます。